

◎ 五月の街路樹

五月晴れといえは鯉のぼりとなるが、森も山も今や盛りと花咲かせ、淡く萌ゆる山々は心を癒やすものがある。街中の街路樹もしかり。パリのマロニエ、銀座の柳には到底およびもしないが、市役所前のイチヨウも折々の顔化粧を施し楽しませてくれる。▼日本の古代街路樹には橘を植えたといわれるが、平城京の朱雀大路は唐の長安にならつて柳(楊)を植えたという。外国人居留地として開拓された横浜・馬車道の櫛は銀座の柳よりも早いといわれ、日本最初の近代街路樹であり都市デザインとしての価値観が導入された。▼今日ではポプラのように成長の早いものや、花・実のなる木が好まれるようだが、これはこれでやっかいなもの。実は鳥の大群を誘うからだ。奈良の都や銀座のように絵になる景観までには、時間や費用がかさむことを考えなくてはいけない。とても竹久夢二の美人画時代のムードとは遠い環境となった。花川地区の国道にはブンゲンストウビが中央分離帯に存在感を持って立っている。その姿を見ていると、ふと考えさせられる。除雪に不都合として時には撤去を求めたり、枯れ葉がうっとうしいとの声、現代人の心根を街路樹は受けて立っている。緑は利己主義的考えに追いやられそう、これも心配だ。(市長)

広告